

【問題提起】 第9分科会

「放射線医療従事者の職場環境と他職種連携に向けて」 夜勤の実態や休暇制度、人員配置について考える

運営委員 岩崎 泰剛（済生会新潟第二病院）

廣中 啓人（済生会兵庫県病院労働組合）

松村 恒（奈良健生会労働組合）

●問題提起

放射線業務に携わる医療従事者は、最新の医療機器の導入により、高度な技術を有する業務が多くなっており、専門性の高い職種です。放射線技師の養成機関は専門学校や短大から四年生の大学に変わりつつあり、よりレベルの高い学生が医療の現場で活躍されています。また、技師会等では教育制度が充実しており、各部門での認定制度の確立、高度な医療を提供する専門性の高い技師を育成しています。

医療の現場では高度な医療を提供する必要な職業ですが、最近では、賃金労働条件の低下、改悪など多くを耳にします。人事考課を行なっている職場も多くあります。そのため、医療研究集会では多くの方に出席して頂き、実態把握を行い、改善につながる集会にしたいと思います。夜勤の実態や有給休暇等の休暇制度、最近では男性育休や看護休暇なども視野に入れ、人員の配置人数など適正に確保されているかなど配置基準についても話し合います。また昨年に続きタスクシフトや他職種との連携も含め議論を深めていきます。

放射線従事者の労働条件を改善するためには現場の意見に耳を傾け、組合執行部との連携を強化し、運動を継続し行うことでより一層、改善につながると考えます。

より良い職場環境を得るには、組合体制や労使関係も重要です。病院と組合が、お互い切磋琢磨し改善していくことが望まれます。そのためには、労働組合も力をつける必要性を感じます。病院と話し合い、働きやすい職場に改善していくことが、組合の最大の魅力です。多くの施設の労働実態を知り、少しでもよりよい職場環境につながる分科会になればと思います。

放射線に携わる医療従事者（看護師、臨床検査技師、臨床工学技士等）の賃金労働条件に関する労働実態、問題点について多くのレポートをお待ちしております。多くの参加者による討論ができれば幸いです。放射線技師だけでなく、放射線業務に従事する医療技術職の参加も大歓迎です。よろしくごお願い致します。